

千七下 66

版權所有

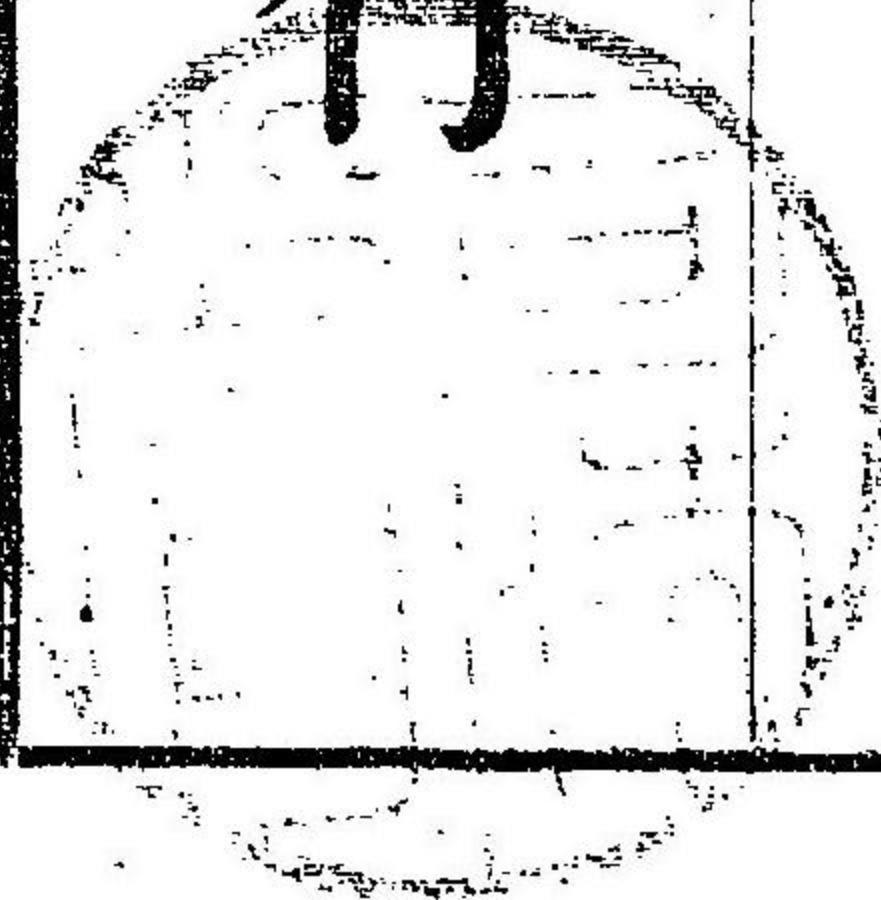
明治八年

自七月
至十二月

大審院刑事判決錄

一卷

司法省刊行



C2
2711
7
~~2/14~~
PX

東京府
刑務局
監獄
監

本院刑事判決録卷一自明治八年六月
至明治八年十二月

目録

取祿除族ノ件	一
誣告反坐ノ件	一
竊盜ノ件	二
私ノ文書ヲ詐爲スルノ件	二
私ノ文書ヲ詐爲スルノ件	二
父冤枉ノ歎訴	三
贓物追徴ノ件	四
鬪毆殺ノ件	四
違式ノ件	五
出獄請求ノ件	六
違令ノ件	一八
竊盜三犯ノ件	一九
新聞條例犯則ノ件	二二
竊盜三犯ノ件	二三
竊盜三犯ノ件	二八

家稅淹滯ノ件
違令ノ件
謀殺ノ件

二九丁
三〇丁
三一丁

大審院刑事判決錄卷一 至明治八年十二月

○申渡(取祿除族ノ件) 明治八年六月三日上告
明治八年六月廿五日申渡

東京府下第五大區小八區淺草
南馬道新町三番地
篆刻家

菅原雪齋
妻 里宇

其方共女婿酒田縣貫屬舊士族亡稻田隼雄長男稻田美津雄ニ明治五年
壬申十一月十八日酒田縣廳ニ於テ父隼雄儀脫走ノ上探索人ニ拔刀疵
付其身自殺致ス始末不將ニ付取祿庶人ニ下スト申渡サレタル裁判不
服ニ付此般本院ニ上告スト雖モ其裁判未タ本院ヲ置カレサル以前ニ
係リ上告ス可キ理由無テ以テ上告狀差戻候事

○申渡(誣告反坐ノ件) 明治八年七月廿八日上告
明治八年八月八日申渡

茨城縣下常陸國行方郡玉造村

林七後家

谷田 宇多

其方ヨリ同村高須彦太郎外二人ニ對シタル上告ノ儀ハ新治裁判所ニ於テ本年二月廿三日懲役七十日ノ處斷ヲ經タルヲ不服ニ付此般本院ニ上告スト雖モ右裁判未タ本院ヲ置カレサル以前ニ係リ上告ス可キ理由ナキヲ以テ上告狀差戻候事

○申渡(竊盜ノ件) 明治八年七月二日上告
明治八年七月三日申渡

熊谷縣下武藏國兒玉郡北堀村

亡儀衛妻

高田 志免

其方儀亡夫儀衛盜犯ノ所業有之熊谷裁判所ニ於テ本年二月二日杖罪六十ノ處斷ヲ經タルヲ不服ニ付此般本院ニ上告スト雖モ右裁判未タ本院ヲ置カレサル以前ニ係リ上告スヘキ理由ナキヲ以テ上告狀差戻候事

○申渡(私ノ文書ヲ詐爲スルノ件) 明治八年七月二日上告
明治八年七月十二日申渡

東京第一大區五小區室町一丁目

八番地平民

大鐘 圓太郎

其方儀加島重郎兵衛外一人へ抵當又ハ賣拂置ク家屋土藏再ヒ差配人ノ偽名ヲ設ケ鈴木金次郎ニ調印爲致追テ買戻シノ約定ヲ遂ケ佐竹義祥外一人へ賣渡スコニ因リ本年六月廿四日東京裁判所ニ於テ私ノ文書ヲ詐爲スル者ヲ以テ論シ懲役七十日申渡サレタル裁判不服ニ付原告人窪田彌兵衛ニ對シ彌兵衛賣戻ノ返リ証書爲取替ノ約ニ違ヒ建家地券ヲ謀取スト本院ニ上告スト雖モ既ニ東京裁判所ニ於テ其事ヲ口供モスシテ彌兵衛ニ賣渡シタルト申立拇印甘結スル上ハ本院ニ於テ上告理ナシト決スルヲ以テ上告狀差戻候事

○申渡(私ノ文書ヲ詐爲スルノ件) 明治八年七月二日上告
明治八年七月十二日申渡

東京第一大區五小區室町一丁目

八番地平民大鐘圓太郎父隱居

大鐘 元三郎

其方儀戸主圓太郎ヨリ加島重郎兵衛外一人へ抵當又ハ賣拂相成居ル家屋土藏ト存シナカラ同入逃走中再ヒ間野幸兵衛方へ追テ買戻シノ約定致シ賣渡スコニ因リ本年六月廿四日東京裁判所ニ於テ私ノ文書

四ヲ詐爲スル者ヲ以テ論シ懲役七十日申渡サレタル裁判不服ニ付原告人窪田彌兵衛ニ對シ彌兵衛賣戻ノ返リ証書爲取替ノ約ニ違ヒ建家地券ヲ謀取スト本院ニ上告スト雖モ既ニ東京裁判所ニ於テ其事ヲ口供セシメテ彌兵衛ニ賣渡シタルト申立拇印甘結スル上ハ本院ニ於テ上告理ナシト決スルヲ以テ上告狀差戻候事

○申渡父冤枉ノ歎訴明治八年五月廿二日上告
明治八年七月卅一日申渡

山梨縣下甲斐國都留郡小野村

農 官 澤 孝三郎

其方父三九郎儀慶應三年九月廿一日夜同村農小侯良左衛門殺死セラレタル事件ニ付明治八年三月廿一日山梨裁判所ニ於テ捕縛相成現今審判中ノ處其方親子ノ至情ヨリ本院ニ歎訴スト雖モ刑事ノ上告ハ裁判言渡ノ後囚人自ラ上告シ及ヒ囚人幼年ナルキハ親族代告スル者ヲ除クノ外親子タリモ上告スヘキ權利ナシ本件ノ如キ囚人自ラ訴フルニアラス且幼年ノ代告ニモアラス又未タ裁判言渡モ無之旁以テ書類下ケ戻シ候事

○申渡(贓物追徴ノ件)明治八年七月卅一日上告
明治八年八月廿九日申渡

大分縣下豊後國速見郡木田村

商

物 集 雄 藏

其方ヨリ被告人物集高世外二人舊杵築藩裁判役五十嵐務外一人へ對シ上告シタル一件ハ明治三年物集高世溝部又三溝部榮三共相謀リ其方家財若干ヲ取掠メ私欲致ス趣舊杵築藩へ訴へ出タルニ付同藩ニ於テ糾問ノ上同三年十二月廿四日處分ニ及フヲ不服ニ存シ同五年大分縣へ出訴致シタル處同縣ヨリ司法省へ相伺同省指令ノ趣ヲ以テ裁判難相成旨申渡スニ因リ猶又右始末辨解致シ私情貫カセ度キ存意ニテ同七年十二月廿四日司法省裁判所檢事局へ出訴シ又本年六月十九日司法省檢事局へ出訴ニ及フト雖モ俱ニ採用無之仍ホ本年七月三十一日本院へ上告スト雖モ其原因舊杵築藩ニ於テ一旦刑法ノ處分ニ及ヒタル事件其上未タ本院ヲ置カレサル以前ニ係リ旁上告スヘキ理由ナキヲ以テ上告狀差戻シ候事

○申渡(鬪毆殺ノ件)明治八年九月二日上告
明治八年九月廿日申渡

熊谷縣下北第五大區三小區

上野國群馬郡高崎驛羅漢町
醫

松本謙吾

其方父周齋儀明治元戊辰年五月五日夜高崎新町ニ於テ舊高崎藩士族
關鐵次郎ニ切害致サレタル後右鐵次郎本年四月熊谷裁判所ニ於テ懲
役三年申渡サレタル裁判了解致シ難キニ付更ニ至當ノ處分ヲ仰キ度
趣同月八日高崎區裁判所へ書面差出シ尙又本年八月十九日同二十日
同上ノ事件熊谷裁判所へ書面差出スト雖モ俱ニ採用無之ニ依リ仍ホ
本月二日本院へ再吟味ヲ願フヲ上告スト雖モ刑事ノ上告ハ裁判言
渡ノ後囚人自ラ上告シ及ヒ囚人幼年ナルキハ親屬爲メニ代告スル者
ヲ除クノ外原告人ニ於テ被告人ノ處セラレタル刑ノ當否ヲ上告スル
ノ權利ナシトス然ルニ本件ノ如キハ其方父周齋ヲ切害シタル鐵次郎
ガ處セラレタル懲役三年ノ刑ノ不當ヲ論シ上告スル事ニ付上告スヘ
キ理ナキヲ以テ上告狀差戻シ候事

○判文 明治八年七月十九日上告
明治八年十月廿二日判決

兵庫裁判所ニ於テ違式ノ刑ヲ言渡サレタル裁判ヲ不法ナリ

トシテ破毀ヲ求ル上告

兵庫縣等外一等警察掛

上告人 長澤 廉太郎

原告人ノ訴願

明治八年二月二十二日原告人神戸西海岸十四番地居留清商鄭雪濤
ヨリ藤原富次郎外四人ニ對シ兵庫裁判所ニ訴フル旨趣ハ本月十四
日午後九時頃巡卒小藤等五人ノ者罪モ無キ私寓所へ進入シ寓内ノ
人ノ他出ヲ禁シ其巡卒等ハ樓上樓下ヨリ衣裳箱等ニ及フマテ盡ク
引出シ解開キ何品モ持スシテ立去リタリ是レ眞ノ巡邏ナラハ其所
爲ハ何事ニ由テ進入セシヤ相分ラス萬一ニモ偽リテ扮装セシ者ナ
ラハ其夜ノ財貨ハ全ク無キ物ト相變リ申スヘシ是故ニ願クハ長官
ヨリ令ヲ出シテ前夜ノ事件ヲ推窮ノ上律ニ照シテ警戒シ以テ將來
如此ノ事ヲ免カレンヲ厚ク望ム所ナリト

七
明治八年三月二日鄭雪濤ヨリ再ヒ兵庫裁判所ニ訴フル旨趣ハ巡卒
ノ一事ヲ示サレタル書ニ烟臭ヲ聞ヒテ進入シタルニ座内三名ノ者
逃去ントスルノ勢アリ且ツ滿室ノ烟臭アリ其烟具ハ何處へ匿シタ

リヤトアルニ付キ答

第一條 我店從來吸烟ノ人ナシ且ツ前後左右トモ皆是レ日本ノ商店ナリ其烟臭何レヨリシテ來ルヘキ右ノ巡卒自ラ錯誤セシヲ知ラハ應サニ惶恐スヘキニ何ユヘニ別人ニ烟臭ノ罪名ヲ誣ヒテ以テ自己ノ過ヲ掩ハントスルゾ巡卒ノ仕方ハ寔ニ法令ヲ輕スルノ事ナラン

第二條 我店開店以來七年餘ニ成リ日本ノ商店鄰地ノ税關等ニテモ皆々我店貿易正直ノ事ヲ知レリ我店ノ三人ハ惡事ヲハ爲サ、ルユヘニ何ユヘニ逃去ルヘキソ巡卒ノ申分ハ耳ヲ掩ヒ鈴ヲ盜ムノ譬喩ニ適當スル事ナラスヤ

第三條 我店ノ三人ノ坐ニ在リシ時ハ外門モ未タ閉チサリシ時ニハ巡卒ハ忽然トシテ進入シタリ夫レ故ニ烟ヲ吸フ者アラハ其烟具ハ何クニ之ヲ藏ムヘキゾ如何シテ藏ムヘキ仕方ノアルベキゾ去レハ吸烟ノ虛實ハ一見シテ知ルヘキ事ナラン

第四條 我等ハ妄リナル仕方ヲ爲シタルヲ無キニ故無ク戸内ニ進入シ滿室ノ搜索ヲ爲シタルヲハ全體何等ノ譯ナリヤ以來巡卒ノ

眞偽ヲ知ルノ爲ニモ相成ルヘクト存シ尙又出訴セリト

被告人ノ答辨

明治八年四月廿九日選卒一等小頭藤原富次郎兵庫裁判所ニ於テ答辨ノ旨趣ハ本年二月十四日午後八時三十分頃神戸出張所ニ在リシ時番人高木源之進小藤春造神戸海岸通四丁目支那館ニ鴉片烟ノ臭氣甚シク戶外ニ洩ル旨ヲ報シ來ルニ付警視掛長澤廉太郎ノ指揮ニテ右ノ高木小藤ノ兩人及ヒ番人大島與吉井ニ自分合テ四人ニテ支那館ノ軒下ニ至リシニ烟臭戶外ニ洩ル、ニ付館内ニ入ラントセシニ支那人三名戸ヲ排シ逃去スルノ勢ヲ見受ケ三名ヲ止メ館ニ入りシニ烟臭室内ニ充滿セリ因テ其旨ヲ支那人ニ申聞ケ同人ヲ立合セ小藤春造ヲシテ燈ヲ照シ寢臺ノ上下ヲ檢査セシメタリシニ何所ニ隠シタリシヤ烟具ヲ得ル能ハス然ル處ヘ長澤廉太郎モ來リシユヘ前文ノ旨ヲ陳述シ引取タリ其後支那人ヨリ自分等衣裳箱ヲ覆スト訴タル趣ナレモ衣裳箱ニハ錠ヲ鎖シ在リタル故ニ箱ヲ開キシトハアラサリシナリト

同年同月同日二等選卒高木源之進兵庫裁判所ニ於テ答辨ノ旨趣ハ

本年二月十四日午後八時頃小藤春造ト巡邏セシニ支那十四番館ヨリ鴉片甚シク香ヒ出ルニ付潜ニ小路ニ入込シニ此館ノ戸口ヨリ鴉片甚シク香ヒ出ルニ因リ全ク此館内ノ支那人吸烟セシニ相違ナレト覺ヘ直ニ神戸出張所ノ警視課ニ報知セシニ一等小頭藤原富次郎番人大島與吉并ニ自分三人ニ往テ警察スヘキノ命アリシユヘ支那館ニ赴キシニ支那人三人馳出テント爲セシユヘ之ヲ押シ留メシニ富次郎ノ差圖ニテ支那人ヲ立會ハセ室内ヲ檢視スヘントノコトニ春造合燈ヲ照シ寢臺ノ上下ヲ檢視シタルニ吸烟ノ器具ハ見當ラザリシナリト

同年五月廿四日元番人大島與吉飾磨縣ニ於テ答辨ノ旨趣ハ本年二月十四日神戸出張所當直ノ夜海岸通支那館ニ鴉片烟臭ヲ發スル旨小藤春造高木源之進ノ報知ニ付警視課長澤廉太郎ノ指揮ニテ藤原富次郎小藤春造高木源之進ト支那館外ニ至リシニ果シテ烟臭戶外ニ漏ルヲ以テ館内ニテ吸烟セシニ相違ナレト思考シ共々戶内ニ立入りシニ支那人三名逃走セントセシニ因リ之ヲ押シ留メ吸烟ノ器具ヲ以テ確證ト爲セント欲シ支那人ヲ立會ハセ寢臺ノ上下近傍ヲ

檢視セシニ何處ニ隠シタリシヤ見出スヲ得サルニ其旨ヲ警視課ニ報知シタリ其餘二階ニ登リ衣裳櫃ニ手ヲ掛レト等ノ舉ハ一切ナサ、リシナリ

同年六月廿三日警察掛等外一等出仕長澤廉太郎兵庫裁判所ニ於テ答辨ノ旨趣ハ本年二月十四日午後九時頃巡行番人ヨリ支那十四番館ニ鴉片烟臭ノ戶外ニ洩ル、トテ報知セシユヘ藤原富次郎ニ烟臭戶外ニ洩ル、ト確然タラハ館内ニ入り檢視スヘント指揮シ外ニ番人三名ヲ遣ハン置キ自分ハ後ヨリ出張シタルニ最早取調後ナレバ成程烟臭ハ猶ホ室内ニ有之タレモ器械等ハ遠敷匿セント覺ヘ一圓譯リ兼ヌル由シテ差遣シタル者共ヨリ承知セシユヘ其旨館内ノ支那人ニ申聞ケ引取タリト

同年六月元番人小藤春造濱田縣ニ於テ答辨ノ旨趣ハ本年二月十四日午後八時半頃番人高木源之進連行ニテ巡邏セシキ支那十四番館ヨリ鴉片ノ烟臭甚シク戶外ニ漏レ出ルニ付出張所ノ警視課ニ報知セシニ藤原富次郎大島與吉高木源之進并ニ自分共四人ニ罷越シ檢視スヘキトノ指揮ニ從ヒ支那館ニ至リシニ支那人三名馳出ントセ

シテ一等小頭ノ指揮ニ因リ押シ留メ樓上樓下ヲ檢視セシニ烟臭ハ室内ニ滿テタレモ烟具ヲ檢出スルコトヲ得サリシ處警視課長澤廉太郎罷越タルニ因リ其指揮ニ從ヒ支那館ヲ引取リタリ然ルニ支那人ヨリハ衣裳箱ヲ引出シ解開キタリト出訴シタル趣ナレモ樓上樓下ノ寢床ノ上下ヲ檢視セシノミニテ器具ヲ解キ開キシコトナク且ツ衣裳箱ト覺シキ物ハ有リタレモ錠ヲ鎖シ在リシユヘニ開キシコト無シ

兵庫裁判所ノ裁判

明治八年七月三日兵庫裁判所ニ於テ裁判ノ言渡左ノ如シ
警視課出張所ニ在テ巡行邏卒ヨリ犯事ヲ告ルニ緩急作略ノ計ヲヒテ以テ適宜指揮スル正規ナル處夜中支那館ニ於テ鴉片烟ノ臭氣戶外ニ盈ルト告ルニ家内搜索ノ儀ヲ指示スルヨリ邏卒數名家内ニ立入搜索スルニ犯事ノ景狀曾テ之レナク其戶外ニ臭氣ノ盈ルヲ以テ未タ現行ト見做ス可ラス又豫防搜索ノ所業モ云可ラス旁不都合ノ指揮ヲ責ルモ國禁ノ嚴ナルヲ重シスルノ情ヲ量リ違式輕ニ問ヒ贖罪金

七十五錢

長澤 廉太郎

鴉片烟ノ臭氣アルヲ以テ出張所出發ノ指揮ヲ受ケ支那人館内へ立入搜索スル者罪ノ論スヘキナシ

無罪

藤原 富次郎

高木 源之進

大島 與吉

小藤 春造

上告人ノ訴願

明治八年七月三日兵庫縣等外一等警察掛長澤廉太郎ヨリ上告願狀ヲ兵庫裁判所ニ捧ケ同月十三日ニ上告趣意明細書ヲ捧ケ上告スルノ旨趣左ノ如シ

本年七月三日兵庫裁判所ニ於テ自分カ刑ニ處セラレタル犯罪ノ申渡書ニ邏卒數名家内ニ立入搜索スルニ犯事ノ景狀曾テ之ナク其戶外ニ臭氣ノ盈ルヲ以テ未タ現行ト見做ス可ラス又豫防搜索トモ云フ可ラスト有之然ルニ本年六月廿三日兵庫裁判所ニ於テ答辨シタル手續書ニ烟臭ハ猶ホ室内ニ有之タレモ器械等ハ遠敷匿セント覺

一圓譯り兼ヌル由ナ差遣シタル者共ヨリ承知セント記載シタリ今
 ヤ烟具アルモ吸食セサレハ烟臭ヲ發ス可ラス巳ニ烟臭ヲ發シ其臭
 室内ニ盈ツルハ豈之ヲ現行ト謂ハサル可ケンヤ假令ハ巡邏ノ際
 ニ當リ鎖戸セル室内ニ人殺シト呼フ者ノアラシニ戸ヲ排シ立入り
 搜索スルニ席上流血淋漓タリ而シテ人ヲ見ズ此ノ如キ時ハ其流血淋
 漓タルヲ認メテ現行犯ト爲シテ可ナラシ是ニ由テ之ヲ觀レハ室内
 ノ烟臭ヲ以テ之ヲ吸烟ノ現行ト謂フコト得サルノ理ナシ夫レ目ノ
 色ヲ見ルヲ以テ現行ト爲スヲ得ルハ耳ノ聲ヲ聞キ鼻ノ臭ヲ嗅ク
 モ亦之ヲ現行ト爲サルヲ得サルナリ然ルニ兵庫裁判所ニ於テ
 ハ前文ノ言渡アリシニ付キ再審ヲ請求セリ

判決

第一條

明治八年二月十四日神戸出張所ノ警視課ニ報知シタル高木源之進ノ
 答辨書ニ支那半四番館ヨリ鴉片甚シク香ヒ出ルニ付潜ニ小路ニ入
 込シ此館ヲ戸口ヨリ鴉片甚シク香ヒ出ルニ因リ全ク此館内ノ支
 那人吸烟セシ相違ナシト覺ト記載シ在リ然ルニ兵庫裁判所ノ裁

判言渡書ニハ巡行邏卒ヨリ支那館ニ於テ鴉片煙ノ臭氣戶外ニ盈ル
 ト告ルト記載シ在リ此兩書ノ文辭ニ據リ之ヲ事實ニ照スニ戶外ニ
 在ルハ烟臭ニ就テ之ヲ觀ルハ兩書各其事實ヲ同フセリトス而シ
 テ烟臭ノ出ル所ノ理由ニ就テ之ヲ觀ルハ兩書各其ノ事實ヲ異ニ
 セリトス何トナレハ戸口ヨリ出ルト云者ハ烟臭ノ戶外ニ散布シタ
 ル事ト其烟臭ノ戸内ヨリ出ル事トヲ述ル者トス戶外ニ盈ルト云者
 ハ烟臭ノ戶外ニ散布シタル事ノミヲ述ヘテ其烟臭ノ出ル理由ヲ述
 ヘサル者トス左スレハ答辨書ノ文辭ハ戶外ノ事ト戸内ノ事トノ二
 事ヲ述ヘタルニ言渡書ノ文辭ニテハ戶外ノ一事ヲ述ヘシノミニテ
 答辨書ノ事實ニ違ヘリトス

第二條

藤原富次郎ノ答辨書ニ館ニ入りシニ烟臭室内ニ充滿セリト述ヘタリ
 長澤廉太郎ノ答辨書ニモ烟臭ハ猶ホ室内ニ有之シト述タリ小藤
 春造ノ答辨書ニモ烟臭ハ室内ニ滿ナシト述ヘタリ然ルニ裁判言
 渡書ニハ犯事ノ景狀曾テ無之其戶外ニ臭氣ノ盈ルヲ未タ現行ト見
 做ス可ラスト記載セリ夫レ烟臭ノ戶外ニ盈ルト烟臭ノ室内ニ盈ル

トハ大ニ其景狀ヲ異ニス若シ戶外烟臭アリテ室内烟臭ナキ時ハ戶外ノ烟臭ヲ以テ室内犯事ノ景狀ト見做スヲ得スト雖モ富次郎等カ室内烟臭アリト述ヘシテ裁判言渡書ニ於テ之ヲ戶外ノ烟臭ト記載セシハ答辨書ノ事實ニ違ヘリトス

第三條

前條二箇ノ事實ノ相違ハ果シテ事實ニ相違シテ室内烟臭ナキノ判決ヲ爲サハ其判決ヲ爲ス理由ヲ掲ケ裁判言渡書ニ記載スヘキ筋合ナリトス然ルニ其ノ理由ヲ記載セスシテ相違シタル事實ニ依リ裁判ノ言渡ヲ爲シタルヲ以テ長澤廉太郎ノ存意ニ於テハ裁判ノ言渡ニ犯事ノ景狀曾テ之レナク其戶外ニ臭氣ノ盈ルヲ以テ未タ現行ト見做ス可ラスト有之トモ自分答辨ノ手續書ニハ自分ハ後ヨリ出張シタルニ最早取調後ナレモ成程烟臭ハ猶ホ室内ニ有之タルヲ記載シタリ左スレハ室内ノ烟臭ヲ以テ之ヲ吸烟ノ現行ト謂フヲ得サルノ理ヲシト應考シ再審ヲ請フノ上告ヲ爲スニ至レリ

第四條

右ノ上告ニ付之キ成文ノ法律ニ照スニ左ノ如ク

明治七年一月廿八日附第十四號太政官布達第二十九條ニ云少警視警部及其附屬官吏地方行政警察官吏右ニ記スル官吏ハ司法警察ノ事務ヲ兼行フ者トス之ヲ司法警察官吏ト云

同第十二條ニ云司法警察ハ現行犯罪ト現行ニ非サル犯罪トノ區別ヲ立ルヲ肝要トス

同第十三條ニ云現ニ行フ所ノ犯罪又ハ目今行ヒ終リタル犯罪ヲ名ケテ現行犯罪ト云

同第十五條ニ云第十三條第十四條ニ記シタル景狀ナキ時ハ之ヲ現行ニ非サル犯罪ト云

第五條

前條ノ布達ニ依リ本件烟臭ノ景狀ト司法警察ノ職務トヲ推究スルニ小藤春造カ巡行中ニ鴉片烟臭ノ商館外ニ散布スルヲ嗅得タルニ付其烟臭ノ原由ヲ搜索セシハ職務ニ於テ相當ナリトス春造カ其原由ヲ搜索スルヲ上役タル長澤廉太郎ニ伺ヒタルニ廉太郎カ搜索スヘシト指揮シタルハ上役ノ職務ニ於テ相當ナリトス烟臭ノ原由ヲ搜索シテ戸内ヨリ出ツルヲ認メシニ付キ藤原富次郎等カ戸内ニ

入リテ搜索セシモ是亦タ職務ノ當然ナリトス已ニ戸内ニ入りタルニ烟臭ノ室内ニ滿布シ在ルヲ以テ吸烟ノ事ヲ目今行ヒ終リタル現行ノ犯罪人が其館内ニ在シナラント思考セシモ之ヲ不當然ノ所爲ナリト爲スヲ得ス然ルヲ裁判役ニ於テハ犯事ノ景狀曾テ之レナク未タ現行ト見做ス可ラストノ言渡シヲ爲シタルハ裁判ノ法律ニ違フモノナリトス

第六條

前條ノ理由ヲ以テ明治八年七月三日兵庫裁判所ニ於テ長澤廉太郎ニ言渡シタル裁判ヲ破毀シ明治八年四月廿九日夜廉太郎等ガ清商鄭雪壽カ館内ニ入りタルヲニ付鄭雪壽ヨリ訴ラレタル事件ハ大坂裁判所ニ於テ審判ス可キ旨ヲ本年十月廿二日同裁判所ニ達シタルニ因リ廉太郎ニ於テハ同裁判所ノ審判ヲ受クヘシ

○申渡出獄請求ノ件明治八年十一月九日上告
明治八年十一月廿四日申渡

長野縣下信濃國小縣郡長窪古町

龍野 新一郎

其方兄清水歸一郎儀七年前城戸果平ノ清水重造ヲ毆傷セシ節同人へ

兇器ヲ貸シ與ヘシ一件ハ既ニ明治二年九月中内濟ノ熟談行届タルヲ本年一月ニ至リ重造前約ニ背キ長野縣ニ告訴セシヨリ歸一郎ハ七年前ノ舊惡ヲ以テ同縣ニ繫獄セラレ數月ノ淹滯ニ及ヒ一家必至困難ノ情ヲ述へ出獄ヲ乞フト雖モ縣官其乞ヲ聽カサルヲ以テ同十月中東京上等裁判所檢事局へ縣官呼出シ事實審糺ノ上公平ノ裁判ヲ受ケ度旨ヲ哀訴シテ採用セラレサルニ付仍ホ又此般本院へ上告スト雖モ刑事ノ上告ハ裁判言渡ノ後囚人自ラ上告シ及ヒ囚人幼年ナルキハ親屬代テ上告スル者ヲ除クノ外親子兄弟タリ共上告ス可キ權利ナシ本件ノ如キ囚人自ラ訴フルニアラス且幼年ノ代言ニモアラス又未タ裁判言渡モ無之旁上告ス可キ理由ナキヲ以テ上告狀差戻シ候事

○判文(違令ノ件)明治八年九月十九日上告
明治八年十二月十日判決

新潟縣下第十六大區小七區

越後國三島郡富岡村

遠藤 孫次右衛門

明治二年九月中富岡村字地郎丸地所水害補理ノ儀ニ付孫次右衛門ヨリ富岡村并善助組等へ對シ悉皆自費ヲ以テ引請ケシニヨリ明治二年

〇二 ヨリ五ヶ年無税ニテ自用スヘキ約定ノ處右補理等閑ナリシヨリ追々
損害ノ箇所相生スル旨ヲ以テ約定ヲ改メ同五年限ニテ地所引戻ノ儀
田中仁四郎外四人ヨリ談判有之ヲ一時承引シ後引戻ノ際ニ臨ミ不服
ノ儀申張孫次右衛門ヨリ仁四郎外四人ニ對シ明治六年八月九日新潟
縣廳へ出訴シタリ

同年十月六日同縣廳ニ於テ裁判ヲ申渡シタル要旨如左

右事件ノ主意ハ既ニ同年五月中孫次右衛門儀舊柏崎縣廳へ出願シ
同縣廳ノ理解ニ服シ再ヒ出願セサルノ請書ヲ差出セシ上ハ申立探
用不相成事

然ルニ同八年ニ至リ孫次右衛門尙右地所へ妄リニ歛入セシニ付富岡
村外三箇村總代才津村水澤宗一郎外一人ヨリ孫次右衛門ニ對シ右亂
妨ノ儀同年五月八日同縣廳ニ出訴セシニ付同縣廳ヨリ新潟裁判所へ
引送リタリ

同年九月七日同裁判所ニ於テ左ノ處斷ヲ爲シタリ

既ニ新潟縣ノ裁判ヲ受ケ進退ノ權利ナキヲ知リナガラ仍ホ耕作ス
ル科雜犯律違令ノ重ニ問ヒ懲役四十日

孫次右衛門ニ於テ右新潟裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトシ同年九月十九
日大審院ニ上告シタリ

右ニ付大審院ニ於テ之ヲ成文律ニ照準スルニ如左

孫次右衛門ニ於テハ新潟裁判所ノ裁判ニ服セスト上告スレバ上告
明細書ニ服シ難キノ理由ヲ申立テサルヲ以テ本院ニ於テ之ヲ破毀
スヘキ理由ナシトス而シテ孫次右衛門口供ニ舊柏崎縣廳ノ理解ニ
服シ重テ願フマシキ請書ヲ差出セシニ付進退ノ權利ナキ地ト存シ
ナカラ尙又耕作セリト記載スルニ依リ新潟裁判所ニ於テハ違令ノ
重ヲ以テ處刑シタリ而シテ其處刑シタル理由ハ孫次右衛門ニ於テハ
右地所ヲ早々相手方ニ引渡ス可キ筈ナルニ引渡ヲ爲サ、リシナリ
左スレハ引渡サ、ルノミニテモ公令ニ違フモノトス況ンヤ已レノ
權利ナキ地ヲ自儘ニ耕作スルニ至テハ又令ニ違フノ重キモノナリ
トス故ニ雜犯律違令ノ重ニ擬シタルハ不相當ナル裁判ニ非ストス

判決

一ニ 右ノ筋合ナルヲ以テ大審院ニ於テハ新潟裁判所ノ處斷ヲ法律ニ適シ
タル者トス依テ上告書差戻候事

○判文(竊盜三犯ノ件) 明治八年九月廿九日上告
明治八年十二月十五日判決

山口縣下長門國阿武郡萩竹多葉町
出生無籍

吉崎 良助

吉崎良助儀昨明治七年九月十五日東京芝口三丁目荒井太助方止宿ノ
節熊谷縣士族增田武夫所持品盜取リ捕縛ニ就キタリ
同八年九月十二日東京裁判所ニ於テ取調フル處竊盜三犯ニ及ヒ贓金
四圓五十八錢五厘ノ口供ヲ甘結スルヲ以テ左ノ處斷ヲ爲シタリ
竊盜條竊盜三犯贓金五十圓以下懲役十年
良助ニ於テハ右ノ處斷ヲ不法ナリトシ本年九月十五日大審院ニ上告
シタリ

右ニ付大審院ニ於テ之ヲ成文律ニ照準スルニ如左
良助ニ於テハ東京裁判所ノ裁判ニ服セスレテ上告ヲ爲スト雖モ上
告明細書ニ其服シ難キノ理由ヲ申シ立サルニ因リ本院ニ於テ破毀
ス可キ理由ヲ示トス而シテ良助ノ口供ニ竊盜三犯贓金四圓五十八
錢五厘ト記載スルニ依リ東京裁判所ニ於テ改定律例竊盜三犯五十

圓以下ハ懲役十年トスルノ例圖ニ擬シタルハ不相當ノ裁判ニ非ス
トス

判決

右ノ筋合ナルヲ以テ大審院ニ於テハ東京裁判所ノ處斷ヲ法律ニ適當
セル者トス因テ上告書差戻シ候事

○判文(新聞條例犯則ノ件) 明治八年十月三十一日上告
明治八年十二月廿五日判決

神奈川縣下橫濱港町五丁目二十三
番地寄留靜岡縣士族橫濱毎日新聞
社編輯并印刷長

塚原 靖

右塚原靖儀明治八年九月六日該社新聞第千四百三十三號ニ上野國吾
妻郡四万村田口十内ノ投書トシテ讒謗律ノ疑ト題セル一篇ヲ掲載シ
タルニ付神奈川裁判所ニ呼出シ審問ノ上同年十月十九日左ノ處斷ヲ
申シ渡シタリ

新聞條例第十四條ニ依リ禁獄十箇月罰金百圓

靖此處斷ヲ不法ナリトシ大審院ニ上告スル要旨如左

第一條 私儀未タ一面識モ無之田口十内ヨリ寄贈セシ該投書ノ儀ハ通篇新聞條例ニ觸スルヲ素ヨリ一目亮然ノ次第ニ付若シヤ如此狂生輩國家ノ成律ヲ誹毀シテ國民ノ法ニ遵フノ儀ヲ擾ルルモ或ハ有之哉ト深ク痛心シ該前文小序ニ於テ此投書ノ本文ヲ十分討駁シ實ニ成法ハ誹毀スヘカラサルノ旨ヲ江湖ニ示サンカ爲メニ掲載セシハ左ノ文意ニ於テモ明瞭ニ可有之即チ無位無職ノ平民ヲ以テ我政府ノ禁令ヲ誹毀スル云々吁嗟明治ノ聖朝ニモ亦如此狂生アリ云々宜ク之ヲ罰シテ以テ世間ノ懲戒トナスヘシ云々等ニテ更ニ疑惑スヘキ廉モ無之答尤末語ニ於テ此文章ノ事ニ付御糺シノ筋ハ一切編者引受クヘシ云々ト有之ハ素ヨリ新聞條例第六條ニ紙上一切掲載ノ事ニ付テハ紙尾署名ノ編輯者其責ニ任スヘシトノ意ヲ顯ハシタルマテノフニテ是ハ特ニ此投書ニノミ限リタルニアラス又決シテ該投書者ニ代ツテ文義ノ御審問ヲ受クヘキ意ニモアラス前條申立ノ如ク私ト田口十内ト毛頭一致同意ニ無之ハ情ノ尤モ賸易スキ者ニシテ更ニ成法ヲ誹毀スルノ證ナシ

第二條 田口十内投書ノ内此律令ヲ遵奉スル者アルヲ聞カサルナ

リノ條下私自記ヲ以テ日新真事誌云々其他論議ノ事實ニ背ケルモノ通篇皆推シテ知ルヘシ云々ト小註ヲ插ミテ本文ヲ駁撃セシヲ以テ該投書者ノ意ト全ク反對セルヲ知ルヘシ是亦更ニ成律ヲ誹毀スルノ証ナシ

第三條 元來投書ハ江湖人民ノ胸臆ヨリ湧出セル者ユヘ其所說中非アレハ之ヲ駁シ謬有レハ之ヲ正シ看者ヲシテ其方向ヲ定メ昏迷ノ念無カラシメンヲ企望スルハ私共ノ衷情ニシテ既ニ其的証ハ朝野新聞第六百六號ニ横濱ヘラルト新聞ニ掲載セル投書家エムスナルモノ新聞條例讒謗律ヲ極口誹毀セシヲ譯出シ朝野記者自記ヲ以テ其原文ノ非ヲ辨シ論說中ニ掲載セシハ普ク世上ノ知ルトコロナリ

今該投書ヲ掲載セシモ其本意ハ自記ノ小序ト駁議トニ在テ後文ノ投書ト譯文トニアラサルヲ明亮ナリ

第四條第五條 私掲載ノ存意ハ前條ノ如ク加之去九月十一日山崎鑑吉殿糺問ノ時唯ニ自記小序ノ事ノミ糺シアリテ後文投書ノ儀ハ尋子ニ及ハス編輯人ト投書人ト意旨相反スルノ事情見認メラレタ

而ノ御裁決ニ於テハ專ラ投書ノ旨趣ニアリテ自記駁文ノ主意ハ
毫モ酌量セラレヌシテ編輯人ト投書人ト同意不同意ノ別ナシ依テ
此處斷ニ服セス

右ニ付大審院ニ於テ成文律例ニ據リ判決スルヲ如左

第一條

第二條

右二條田口十内投書ヲ掲載シ序文并ニ小註ニ於テ駁撃スルヲ以テ
十内ニ同意セサル証トス因テ罰ヲ受ル所以ナシト言ト雖モ新聞條
例第七條ニ紙中若クハ卷中載スル所第十二條以下ノ禁ヲ犯シタル
時ハ編輯人首ヲ以テ論シ筆者ハ從テ以テ論ストアレハ罰ハ掲載刷
行スルニアリテ同意不同意ハ問フ所ニ非ス

第三條

罪ノ有無罰ノ當否ハ本人一身ノ上ニ於テ論スルヲ通法トス他人ノ
所爲ヲ引テ證ト爲スヲ得ス況ンヤ未タ裁判ヲ經サル者ヲヤ且又裁
判官ハ己レ自カラ罪犯ヲ探索シ又ハ告發告訴スル者ニ非ス犯人ヲ
糾スニハ一定ノ方法アリテ被害人又ハ警察官ヨリ原告スルニ非サ

レハ其罪ヲ治スルヲ得ス因テ朝野新聞等ヲ引クモ審判上關係スル
所ニ非ス

第四條

第五條

右二條中大意同シク神奈川裁判所ニテ推問ノ時ハ唯小序ノ事ノミ
糾シアリテ後文投書ニ及ハス編輯人ト投書人ト不同意ノ事情見認
メラレシニ其裁決ニ至リテハ不同意ノ處毫モ酌量セラレヌト云フ
ハ推問ハ輕ク處斷ハ重クシテ前後相反スルニ付不服ト言フニ似タ
リ然レトモ推問ノ務ハ犯罪ノ證據ヲ具スルニ在リ罪ヲ斷スルノ務
ハ其憑證ニ據リ之ヲ法律ニ擬スルニアリ既ニ前條ニ理由ヲ述ヘシ
如ク新聞條例ノ罰ハ掲載刷行ニアリテ同意不同意ハ問フ所ニ非サ
レハ推問上ニ掲載刷行ノ憑證ヲ具スレハ處斷ニ至リ同意不同意ヲ
酌量スルヲ得ヘキ理ナシ故ニ神奈川裁判所ノ推問ト處決ト前後一
致ニシテ相反スル者ニ非ストス

判決

右ノ筋合ナルヲ以テ神奈川裁判所ノ處決ヲ成文律ニ適シタル者トス

八二 依テ上告狀差戻候事

○判文竊盜三犯ノ件明治八年十二月四日上告
八年十二月廿八日判決

遠江國安部郡安西町五丁目出生

當今東京第五大區七小區下谷仲

御徒町四丁目三十番地

中西清七郎附籍平民

曾根 武免

曾根武免儀本年十月二十日東京第五大區三小區下谷仲御徒町二丁目四十一番地敦賀縣士族森山和所持品盜取り捕縛ニ就キタリ
同年十一月廿七日東京裁判所ニ於テ取調フル處竊盜三犯ニ及ヒ贓金二十錢ノ口供ヲ甘結スルヲ以テ左ノ處斷ヲ爲シタリ

竊盜條竊盜三犯贓金五十圓以下懲役十年

然ルニ武免ニ於テハ其所持品ハ店先ニテ手ニ取ルノ際事主ニ覺知セラレ取戻サル、ニ依リ右ノ處斷ヲ不法ナリトシ同年十二月四日大審院ニ上告シタリ

右ニ付大審院ニ於テ之ヲ成文律ニ照準スルニ左ノ如シ

武免ニ於テハ東京裁判所ノ裁判ニ服セスシテ上告ヲ爲スト雖モ武免其物品ヲ取去リ已テニ盜所ヲ離ル、ニ因リ本院ニ於テ破毀スヘキ理由ナシトス而シテ武免ノ口供竊盜三犯贓金二十錢ニ甘結スルニ依リ東京裁判所ニ於テ改定律例竊盜三犯五十圓以下ハ懲役十年トスルノ例圖ニ擬シタルハ不相當ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ筋合ナルヲ以テ大審院ニ於テハ東京裁判所ノ處斷ヲ法律ニ適當セル者トス因テ上告狀差戻候事

○申渡家稅淹滯ノ件明治八年十二月二十三日上告
八年十二月二十八日申渡

東京第五大區十一小區淺草猿若町

三丁目十九番地

東京府士族德永昌大父隱居

德永 昌新

其方儀東京第一大區小十區築地壹丁目四番地平民山本加免へ掛ル家賃淹滯一件ニ付本年十月廿五日東京裁判所へ出訴ノ末同十二月十三日同裁判所ノ申渡ヲ受ル處右裁判ヲ不服ナリトシ此般本院ニ上告ス

○三
ト雖_レ抑右加免儀當今住居ノ家作ヲ米井佐兵衛ヘ抵當ニ金圓借用シ
又松本布久外一人ヘ賣渡ス儀ハ全ク亡夫金五郎ノ所爲ナルヲ以テ無
構但貸借上ハ民事課ノ裁判ヲ受クヘキ旨申渡タルハ相當ノ裁判ニ
テ且未タ其民事課ノ裁判ヲ受ケサルニ係レハ旁本院ニ於テハ受理ス
ヘキ理由ナキヲ以テ上告狀差戻候事

○申渡違令ノ件明治八年十二月二日上告
明治八年十二月廿八日申渡

埼玉縣下第二十五區下總國葛飾郡
上柳村農

石川 與一郎

其方儀東京府下武藏國豐島郡前野村原告小泉定右衛門ヘ掛ル質地并
小作米金淹滯一件ニ付一昨明治六年十二月右定右衛門ヨリ司法省裁
判所ヘ出訴ノ末昨明治七年十一月十八日同裁判所ノ終審裁判ヲ受ル
處右裁判ヲ不服ナリトシ執行セサルニ付本年十一月十九日埼玉裁判
所ニ於テ雜犯律違令ノ重ニ問ヒ懲役四十日ノ處刑ヲ申渡タルニ付此
般本院ニ上告スト雖_レ右司法省裁判所ノ裁判ハ本院開廳以前ニ係ル
ヲ以テ上告スヘキ權利ナシ且埼玉裁判所ニ於テハ其裁判ノ如ク執行

セサルニ付違令ノ刑ヲ申渡タルハ相當ノ裁判ナルニ上告明細書ニハ
其刑ノ破毀ヲ求ムルニ非スレテ尙又右終審裁判ノ不服ヲ申立ツルニ
付素ヨリ刑事上告ノ手續ニ違フ者トス依テ本院ニ於テハ受理スヘキ
理由ナキヲ以テ上告狀差戻候事

○判文謀殺ノ件明治八年十月二十日檢事上告
明治八年十二月二十八日判決

東京第八大區七小區江古田村
七拾六番地農

宇佐美 金藏

宇佐美金藏儀明治七年十二月九日夜ヨリ同村農堀野彌七妻知加ト姦
通シ同八年二月六日夜同姦ノ狀ヲ夫彌七ニ覺知セラレ愛人ヲ以テ金
三圓ヲ出シ私和スルノ後彌七故ナク金藏ヲ殴打シ愛人立入彌七謝書
ヲ出シテ和解ス同年四月十日彌七又姦情ノ斷否ヲ試シ爲メ妻知加ヲ
シテ金藏ヲ罵詈セシメ又自ラ之ヲ詰リ殴打セントス金藏一時避テ應
セサルモ是ヨリ後患ヲ悚レ心氣迷亂セル如ク同月十四日午前第八時
銳ヲ携ヘ彌七ノ家ニ突入亂撃シ彌七重傷即死ス依テ金藏ハ即時捕縛
ニ就キタリ同八年十月十二日東京上等裁判所巡回判事ニ於テ處斷ヲ

二三 爲ス如左

彌七故ナク妬心ヲ起シ漫ニ金藏ヲ疑ヒ毆打二次ニ及ハント欲ス金藏更ニ畏避スル處ヲ知ラス突然彌七ヲ殺ス其兇惡言フヲ待タスト雖モ彌七モ亦自ラ招ク所ナキニ非ス故ニ故殺ヲ以テ論シ情法ヲ酌量シ一等ヲ減シ懲役終身

巡回檢事司法省九等出仕今中守身右處斷テ不法トシテ明治八年十月二十日大審院ニ上告ス其要旨如左

謀故殺ハ重犯ニシテ法律中最モ酌量シ易カラサル者トス舊惡減免法ニ於テモ謀故殺ハ例外ナルヲ以テ推シテ知ルヘシ或ハ行兇人直ニシテ被殺人曲之ヲ殺傷スルニ該時不得止ノ情勢顯然タル者ノ如キハ格別ナリト雖モ他些少ノ情ニ因テ容易ニ酌量減等ノ法ヲ用ニ可ラス該事件ノ如キハ懲諒スヘキノ情極メテ薄キ者ナリ仍テ罪案中記載スル所ヲ四項ニ分テ陳述ス

第一項 金藏知加ト同衾セルニ當テ本夫彌七ニ見認ラル所謂姦所ニ撞見セララル者ナレハ此時ニ於テ爲メニ殺傷セララルモ如何スヘキナシ彌七深ク忍耐スルニ因リ謝金私和ヲ得ルハ金藏ノ幸ト謂

フヘシ他日些少ノ事ニ因リ之ニ怨望スルノ理ナシ

第二項 既ニ私和ヲ徑ルノ後彌七故ナク金藏ヲ毆打スルモ金藏其身曾テ過惡アルヲ以テ敢テ敵セス走テ前日ノ喫人ニ訴ヘ謝書ヲ得テ和解ス金藏ノ所置穩當ト云ヘシ

第三項 彌七其妻ヲシテ姦情ヲ絶ツノ證ヲ表スル爲メ金藏ヲ詈ラシメ且自ラ亦之ヲ詰リ毆打ニ至ラントスルモ金藏避クテ應セス是モ亦金藏ノ所置穩當ト云ヘシ

第四項 金藏苦思數日危疑ノ怯情脚臆ニ迫リ忽然心氣迷亂セルカ如ク白日兇器ヲ携ヘ彌七ノ家ニ踏込ミ之ヲ擊殺ス何ソ其狂暴ナルヤ彌七ニ傷害セラレン事ヲ恐テ事此ニ及フト謂トモ彌七害心ヲ挾ムノ證アラス畢竟自己ノ痴想ヨリ一時前後ヲ顧ミス此兇惡ヲ行フ者ト云ヘシ

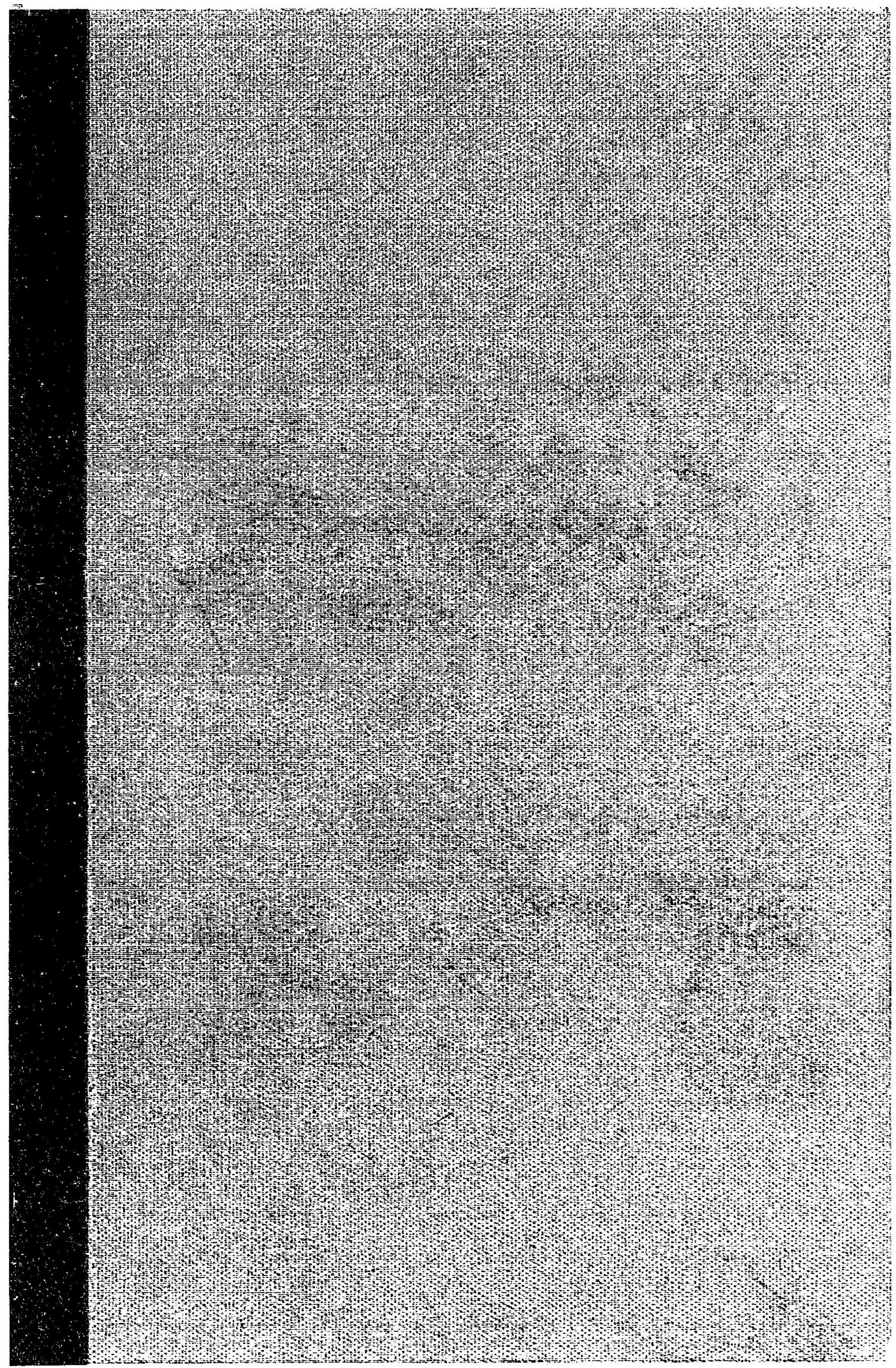
右四項ノ旨趣如此ナレハ被殺人自ラ殺ヲ招クノ惡アリト難言金藏モ亦不得止ノ情勢ニ出ルトモ難言シテ懲諒スヘキノ情狀極メテ些少ナル者ナリ故ニ右處斷ノ酌量ハ法律ニ適ハサル者トス

三三 右ノ上告ニ依リ大審院ニ於テ條理ヲ推シ法律ニ照スル如左

檢事ノ上告情狀ヲ論スル明白ニシテ巡回判事ノ減等セシハ條理ニ
 背ク者トス然レモ懲諒ス可キノ情狀極メテ些少ナル者ナリト云フ
 ハ猶些少ノ酌量スヘキ者アツテ存スト爲スニ似タリ是レ未ダ允當
 ナラストス何トナレハ彌七既ニ私和ヲ爲スノ後餘怒未ダ收マラス
 シテ毆罵ヲ加フルモ未ダ嘗テ害心ヲ挾ムノ證ヲ顯ハサ、ルニ金藏
 ニ於テハ白日兇器ヲ携ヘ其家ニ踏込ミ之ヲ擊殺スルノ狂暴ニ至レ
 リ是レ豈些少ノ懲諒酌量ス可キ者有ンヤ又故殺ヲ以テ論スルモ其
 當ヲ失セリトス何トナレハ彌七夫妻ノ罵詈詰問ハ四月十日ニシテ
 金藏ノ擊殺ハ四月十四日ナレハ其間相距ル三日ナリ加之鉞ヲ我家
 ヨリ携ヘ往テ彌七ノ家ニ至ルヲ見レハ三日間日夜苦思シテ其心遂
 ニ殺ニ決セシテ明カナリ然レハ謀殺ニシテ故殺ニ非ストス

判決

右ノ筋合ナルヲ以テ東京上等裁判所巡回判事ノ擬律ヲ平翻シ改テ人
 命律謀殺條ニ依リ斬ニ擬ス因テ控訴上告手續第三十九條ニ照準シ此
 ナ本院ノ檢事ニ交付ス



CZ
2711
7

大審院刑事判決録 卷二

明治八年七月^{十二}月

国立国会図書館

036550-001-6

CZ-2711-7

大審院刑事判決録

明8.6-17.11. 19-20年

司法省

M11-24

BBR-0316

